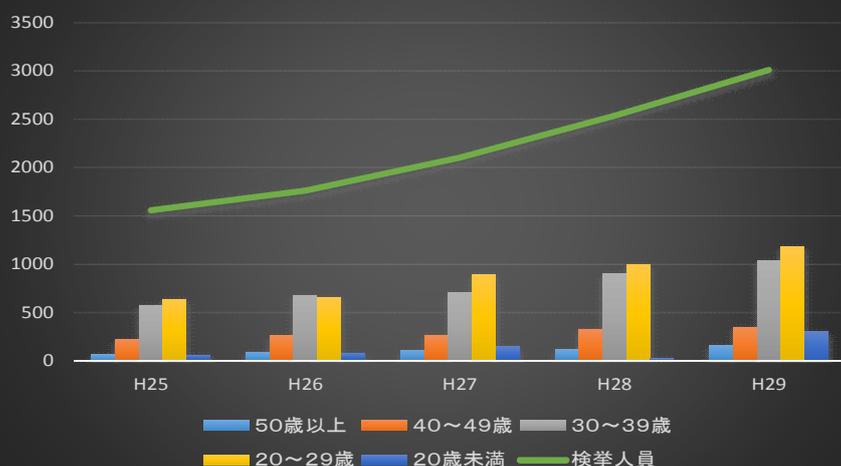


大麻事犯の検挙人員が増加！！

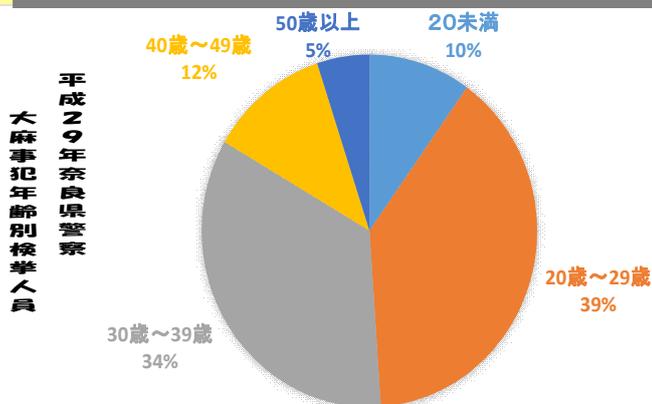
近年大麻事犯の検挙人員は、平成25年以降増加の一途を辿り、昨年の検挙人員は統計を始めて以降最多を記録し、増加傾向に転じた平成25年当時の約2倍となりました。

このような大麻事犯増加の背景には、大麻の有害性についての認識の誤りや、若年層を中心とした大麻の乱用拡大があると考えられます。

大麻事犯年齢別検挙人員の推移



大麻事犯の若年層化



大麻事犯検挙人員は、20歳代が全体の約4割を占め、20歳未満を合わせると全体の半数にも上ります。全国的に見ると、平成25年当時、20歳未満の検挙人員は59人であるのに対し、昨年は297人と約5倍に増加しています。

奈良県についても平成25年当時20歳代と20歳未満の検挙人員を合わせて12名であるのに対し、昨年は37名と約3倍に増加している現状です。

警察庁が、大麻に対する危険（有害）性の認識について調査した結果、大麻が有害であると回答したのは全体の**30.8%**に過ぎず、大麻の危険（有害）性が軽視されている現状があり、大麻事犯が若年層化している1つの要因となっていると考えられます。

